



副代表幹事  
経営改革委員会 委員長

**小林 喜光**

三菱ケミカルホールディングス  
取締役社長

### Contents

<b>■特集</b>	
2011年度 (第26回) 経済同友会 夏季セミナー (前編) <b>復興と成長への挑戦</b>	02
<b>■Close-up提言</b>	
リスク・マネジメント研究会 意見書 <b>リスク管理、特にクライシス・マネジメントの再考</b> —経営者が早急にチェックすべきポイント—	14
<b>■Doyukai Report</b>	
<b>会員懇談会</b>	15
「The Internet for Good ～テクノロジーが豊かにする社会～」 エリック・シュミット氏 (Google 会長)	
<b>■Seminar</b>	
<b>第106回TCERセミナー</b>	17
「経済学の視点からの震災復興」 福田 慎一氏 (東京大学大学院経済学研究科・教授、TCER理事) 塩路 悦朗氏 (一橋大学大学院経済学研究科・教授、TCER代表理事代理) 岩本 康志氏 (東京大学大学院経済学研究科・教授) 木村 福成氏 (慶應義塾大学経済学部・教授、TCER理事) 浦田 秀次郎氏 (早稲田大学大学院アジア太平洋研究科・教授、TCER理事)	
<b>■Column</b>	
<b>巻頭言</b> 小林 喜光	01
「KAITEKIと四次元経営」	
<b>リレートーク</b> 飯塚 哲哉	19
「日本人とリスク対応」	
<b>Global View</b> チャールズD.レイク II	20
「地政学的な戦略として見るTPP交渉」	
<b>私の思い写真館</b> 長瀬 朋彦	22
「安倍元総理発案 兄弟対決実現!」	
<b>新入会員紹介</b>	21

## 「KAITEKIと四次元経営」

東日本大震災は鮮烈な出来事でした。その被害の大きさはもちろんのこと、その前後で日本人に限らず世界中の人々が、自然やエネルギー、国や社会のあり方、そして暮らしに至るまで、その見方、考え方を一変させてしまったと言えるでしょう。

私たちはどのように生きていくべきなのか？ これは大震災が起こる前から、いや「ヒト」というものがこの世に生まれ出た瞬間からの、根源的で本質的な問い掛けでしょう。幸か不幸か、私のいる三菱ケミカルホールディングスは、業態の特性から日常的にその問いを投げ掛ける必要がある企業グループなのです。

素材・部材事業は、裾野があまりにも広く、企業としての社会還元や社会貢献の場を直接的に目にするのが難しいため、下手をすると「自分たちは何をしている会社なのか」を見失ってしまいがちです。そこで私は、社長に就任してから、従業員の目標と意識を一つにするため、「私たちは『KAITEKI』を目指そう」と呼び掛けてきました。単なる「快適」ではなく、ローマ字で書いた「KAITEKI」。個人の生活や感覚にとどまらず、社会や人類、地球までも含めたところでの「KAITEKI」。それを企業活動を通じて実現していこうというわけです。

大震災を経て、私たちはまるで、冷水でも浴びたように意識を覚醒させ、目を見開き、新たなる日本の構築に向け動き出しました。そこであらためて私は強く感じたのです。現在の私たちが目指してゆくべきものは、やはり「KAITEKI」なのだ。

そして、地球全体が、将来世代も含め、「KAITEKI」に過ごしていくあり方というものを一から積み上げていくため、私がかねてより提唱している「Management of SUSTAINABILITY (MOS)」という経営ツールを導入した「四次元経営」を、大震災の起こった直後、この4月からスタートさせたところです。

19世紀後半の若き天才詩人、アルチュール・ランボーは、「地獄の季節」の中で「科学」というものに対して鋭い洞察を行っています。大震災を通じ、人類はあらためて「科学」というものに対して、ランボーと同じような深い疑念を抱き始めたと言えるでしょう。そこで私はあえて申し上げたい。「皆さん、『KAITEKI』を目指しましょう、『科学』の力を信じながら」と。

今月の表紙：世界の文様シリーズ

### 【モザンビーク・ファブリック柄】

葉をモチーフにした独特のデザイン。女性のヘッドスカーフなどに使われる柄です。自然界の生物を文様にしたものが多くみられます。